

## 私めが『やりました』

平成三三年度同窓の集いを担って

山本利春 (24回)

平成二三年度の同窓の集いは我々新制二四回生が担うことになった。残念ながら関東支部の二四回生は誰一人それまでの集いに参加したことが無かつたらしい。やおら腰を上げたのは良かったのだが、いざ準備を始めたら皆目先が見えてこない。五里霧中の中、開催日がどんどん近づいてくる。案ずるより生むが易し、と自分に言い聞かせても、現実は一向に『易く』ならない。不安が雪達磨のごとく大きくなり、半ば自暴自棄になっている時、助けてくれたのはやはり同級生でした。もつべきものは同級生です。一点のしずくが輪を広げて、二十名近くの同級生が集



総会での筆者 左二番目

まりました。皆さん知恵が豊富で、山積みになっていた問題をどんどん解決してくれました。あとは当日『行くだけ』という次第になったのです。

ところが、当日行ってみるとさにあらず。やはり物事には人智を超えることが起こるものようです。おおよそ百五〇人の参加者が時間を置かずに一斉にどつと押し寄せてきました。皆さん一年ぶり、ないしは何年ぶりかです。人々たちです。受付広場は受付する人、立ち話に花を咲かせる人等々でござった返し、終止符が打てない様相を呈したのです。しかし、そこは村高卒業の先輩方の助言を得て関東支部総会開催の時間までには収まったのです。持つべきものは同窓生の先輩、先輩です。懸念の種は多々あったのですが、その中でも最たるものは私自身の問題。不肖、私が開会の挨拶をすることになっていたので。わずかに五分挨拶するだけであるのですが、こういうことに慣れていない私は、一週間前に原稿を書き、それをひたすら繰り返し、完璧に記憶したので。最初の一言があれ

ばあとは自動的に出るようになるまで、練習に練習を重ねたのです。ふたを開けてみると、なまじっか記憶しない方が良かったと思う。壇上にかかるときに、階段にちよつとつまずいたのですが、それがいけなかった。その瞬間に最初の一句を忘れてしまったのです。十秒、あるいは一分か、その間必死になって思い出そうとするのですが、ちつとも浮かんでこない。血が引

いていくのがよく分かりました。長い時間が経って(私にはそう感じられなかった)、やつと最初の一句『皆様方』を思い出したので。そのあとは練習の成果が発揮されました。不肖、私めが『やりました』。

実は人智を超える出来事はこれだけではなく、まだいくつもありません。されど、そこは二四回生、並びに同窓生、結果として同窓会関東支部総会は無事に終了したので。『案ずるより産むが易し』だったのです。

(横須賀在住)

## 総会での募金に感謝!

今回の総会・同窓の集いにおいて東日本大震災で被災された方々に「頑張れ東北」の気持ちを入れて会場に義援金箱を置きました。皆様からの募金が集まり、二二、〇〇〇円になりました。

この義援金を仙台支部長宛にお見舞い金としてお送りしました。ご協力有難うございました。

## 村上物産展

総会恒例

の村上物産展も盛況でした。商品を提供していただいたお店の配慮により、純益三五、一六五円は関東支部からの寄付という形で本校同窓会本部に寄贈いたしました。



## 東北に復興の力

仙台支部長 本間弘信 (25回)

震災の折には貴閣東支部からお見舞いと励ましのお言葉を頂戴し、誠に有難うございました。



た。あの忌まわしい震災から間もなく一年が経過しました。



石巻・震災直後 筆者写す

揺れだけの被害でも大変なのに、津波とそれに続く福島第一原発の被害が強烈でした。国も県も市町村も頑張っているのですが、容易に復興が進まないというのが現実です。津波被害地区の瓦礫は大体は片付き、建物の土台を残して何も無い原っぱになりました。しかし、そこから進まない。津波被害地区の高台移転も、内陸部の団地の土地の崩れによる集団移転も、住民の意見が纏まらず、山積みにした瓦礫の域外処分も、受け入れ自治体住民の反対運動でなかばストップ。いつそんな時は、民主主義なんて無いほうが良いのではと思ってしまう次第で...

阪神淡路大震災は、復興に十年掛つ